

バラバラ殺人事件から見えるもの

院長

昨年末から女子大生バラバラ殺人事件、セレブ妻バラバラ殺人事件等の特別な事件がマスコミを賑わせています。そればかりではなく、連日殺人事件の報道が多いと感じているのは自分だけでしょうか。心理学や犯罪学の専門家でも無く法医学者ではありませんが、小児科医の立場として背景を考えてみたいと思います。

殺人事件というだけでもニュースなのに、バラバラ事件となると様々な背景を想像してしまうものです。専門家によると遺体をバラバラにするのは、犯罪や身元を隠すため、運びやすくするため、憎しみが強い場合などの理由だそうです。今回の事件の真相はまだはっきりしていないので、このうちどれが当てはまるかはわかりません。

今回の事件に共通しているのは、家族が比較的裕福ということでしょう。犯罪の理由の中には、経済的な要素が大きいとされています。報道で知る限り加害者は、子ども時代には不自由の無い生活をしていたようです。

子どもには様々な欲求がありますが、親が子どもの欲求に全て答えることはできません。子どもも成長とともに欲求が通らない経験から、我慢する方法を自然と学んでいくものです。と言っても、お腹が空けば泣くし、思い通りにならなければ暴れたりしますが、それを我慢させることは赤ちゃんの時期には困難でしょう。ですから親は子どもが小さい時期は多くを許さざるを得ないし、年を経るに連れて許す範囲を狭くしていかなければなりません。人は生きていく上で、親、兄弟等の家庭や友人、学校などの社会の中で、「肯定」と「否定」を経験し続けています。少子化による偏った愛情、本来の意味を失った個人の尊重、そして子育て論の世代間断絶から、子どもの思いど通りにさせてしまうことが望ましい風潮も生まれました。昔は(こういう言葉がでると古い人間と感じてしまいましたが)、子育ては両親以外の家族、隣近所という社会に支えられ、また子ども同士遊びを通して多くのことを学びながら育ちました。子どもたちという小さな社会の中で、将来の大きな社会を乗り切るための知恵のようなものを覚えていったのです。そして、子供が育つとともに、親も社会も育っていったのです。核家族化が進み、希薄な社会との関係では、学ぶための機会が少なくなってきました。子どもが少なければ、子どもへの思いが強くなるのは当たり前です。可愛く思い愛情が強ければ、何でもさせてあげたいと思うのは

仕方ありません。逆に育児を母親一人で背負うため一対一の対応に疲れ、余裕が無くなると、うるさい子どもを黙らせるために思い通りにさせてしまうことも多くなるかもしれません。社会や他人との交流の経験が少なく、何でも思い通りにさせて



くれる親御さんの中で育った子どもは、我慢をすることができない子になってしまう恐れがあります。偏見かもしれませんが裕福な家庭のお子さんは、経済的な側面に支えられてお坊ちゃんお嬢ちゃんと呼ばれながら、普通以上に思い通りに育てられることが多いかもしれません。人は生きていく上には、様々な場面に遭遇し乗り切らなければならない困難にも出会います。思い通りにならないことを乗り越えていくための力が「心の耐性」と呼ばれるものです。「心の耐性」に関してはCLINIC NEWS(H10.9)にあるので、是非読んでみてください。赤ちゃんの頃から何でも思い通りに育てられ、好きなものを買って与えられ、何でも好きなことをしてくれば、心の耐性が育つ暇が無いのです。思い通りに育てられてくると、自分が何か高い存在にさえ思われ、「自尊心」だけが必要以上に育つのもかもしれません。「心の耐性」の欠如と過大な「自尊心」が、時には大きな怒りとなって爆発してしまいます。先に述べた「肯定」と「否定」も関係し、長い間「肯定」され続けてくると、「否定」ということにより「自尊心」が大きく傷つけられることとなります。時々診療の場面で、「何でも思い通りにしていると、いつか思い通りにならなかった時、お子さんがキレて刺されるかも」と、笑いながら言うことがあります。常識で分別できることでも、キレることによって見境の無い凶行を引き起こしてしまうかもしれません。今回のケースは突発的な犯行だったかもしれませんが、それまで積もってきた様々なストレスに打ち勝つ心の耐性が育たず、「自尊心」だけが大きく育ってきたことが根底にあるのかもしれません。

週刊誌のように、あること無いこと想像するつもりはありません。この記事で言いたことは、子どもを尊重し何でも自由にさせるということは、子育てに必ずしも必要なものではありません。子どものためにも親のためにも、我慢する力を養うことはとても重要なことです。温かく抱きしめてあげてばかりでは不十分です。様々な人たちと出会い、社会との関係を持つことの重要性を認識してください。そして、時には子どものことを考えて突き放すという意識も必要です。全ては子どもの未来のためです。そんな子育てを考えてみてください。

読者の広場

たくさんお年賀状ありがとうございました。また先月は14通のメールを頂きました。その中から、頂いた新年の挨拶を紹介します。まずは青葉区のKさん(時間がなくて許可取れなかったので匿名に)「あけましておめでとうございます。昨年未便秘から下痢、ノロウイルスと慌しい師走の中大変お世話になりました。最近ではやっと体調も良くなり食欲・元気共に快調です(鼻水は季節がら仕方ないですけどね...)過ぎてしまえばただの便秘だったのかもしれませんが、苦しむ姿を目の当たりにすると母はなんとかしてやりたいと思い、また最悪の事を考えたりすると...何が起こってから後悔だけは絶対にしたくないと思いつい大げさに考えてしまっていますが、そんな思いに最後まで付き合って頂き感謝しています。正に川村先生が掲げている理念を実感しました。また風邪や嘔吐下痢等かなり重症そうな患者さん達であふれているクリニックに度々おじゃまするのもどうかと躊躇している時にいつもお電話を頂き助けられました。これからも不守になった時は遠慮せず伺いたいと思いますので今後ともよろしくお願い致します。その前に母として勉強もしていきたいと思っておりますので復刻の投票させていただきます!(遅いか)しかながら、これから益々お忙しいと思っておりますのでまずは先生ご自身のお身体も大事になさってください。(さんさん頼っておいて言うのもなんですが...)本年もどうぞよろしくお願い致します。」ひとつの経験で学ぶことはとても重要です。誰でも最初から分かっているとは限らないので!。当院の理念、理解してくれることはとてもありがたいことです。ありがとうございました。もう一通は青葉区の早坂さんからです。「川村先生〜♪お元気でしょうか〜。早坂真奈穂&母です。喪中の為、クリニックに新年の挨拶がおそくなってしまいました〜。今年も親子共々どうぞ宜しくお願い致します。m(_)mさてさて、去年は年末ギリギリ迄先生に親子揃って診察して頂き、嬉しかったです。と、言ったら表現が間違っておりますが...(~_~;)体調を崩しても、信頼のおける先生が居ることが嬉しいということですよ☆多お母さんクラブのクリスマス会の御礼もすっかり...忘れていたわけではありませんが...本当に、毎年母も子も楽しめるクリスマス会を企画して頂き、感謝の気持ちでいっぱいです★日々、激務をこなしながら、こんなにも愛情タップリのイベントを作り上げるのは本当に、沢山のご苦労があったかと思えます。恥ずかしがりやなので!、スタッフの皆さんに充分御礼を言えてないような気がしますので、この場で改めて言わせて下さい。先生・スタッフの皆様本当にクリスマス会は楽しかったです〜有難うございました!そして、かわむらこどもクリニックのクリスマスのイルミネーションと飾りつけ、最高に感動しました!!娘は、キラキラ綺麗〜と、うっとり。院内もとってもセンス抜群で体調不良も忘れるほど♪そのくらい、クリスマスの雰囲気がかつても良く、患者さん以外にも見て欲しいくらいの飾りつけでした。もっと早くクリニックに行ったら、TVとかに宣伝して、取材して欲しかった〜なんて思いましたが...今年も、またやりますよね?お母さんクラブ広報担当?やりますので!!(笑)と、言う事で、今年も先生にお世話になるつもりマンマンですので、親子共々宜しくお願い致します。。スタッフの皆様にも、宜しくお願い下さい。本年もどうぞ宜しくお願い致します。」ありがとう。お母さんクラブの広報部長の任は重いですよ。よろしく。



ローラーワークス展のお知らせ



Roller Works

*** ローラーワークス展 ***
仙台で生まれたレース編みのような繊細な作品

- 日時 2007年2月6日(火)〜11日(日) 11:30〜18:30
(初日13:00開場 最終日16:30閉場)
- 会場 ギャラリー 社間道
仙台市青葉区春日町2-8 1F
TEL. 022-224-7066
- 主催 阿部さやかフローラルセミナー
仙台市青葉区本町2-18-22 TEL/FAX 022-265-7780
URL <http://www.flower-sayaka.com>

院長婦人も展示!!

リビング仙台2月3日号で紹介
各局テレビでも紹介予定

2月のお知らせ

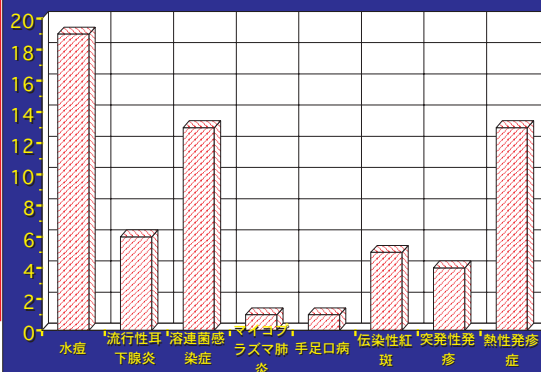
- ・在宅休日当番
2月4日(日) 9:00〜16:00
- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30〜
栄養士担当 無料



編集後記

年末から嫌な事件が続発しています。本当の原因は、どこにあるのでしょうか。我々小児科が何ができるのか考えています。本当に今年は暖冬、インフルエンザもこのまま流行しないといいいのですが、でもこれから流行の気配です。

1月の感染症の集計



水痘は半分程度に減少しましたが、おたふくは変わらず、溶連菌感染症はやや増加しています。手足口病は減少し、伝染性紅斑が少し増加しています。グラフには示していませんが感染性胃腸炎は以前ほどではありませんが、まだ多くみられました。インフルエンザはわずか4名ですが、ここ2〜4週で増加しそうです。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
お陰様で再版の方向に! 詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を